

お気づきでしたか？

「表紙の種明かし」

今年三月に滋賀大学広報誌は『しがい』として、広く地域社会へ情報を発信するメディアとしてリニューアルされました。年間五号ですが、そのうち三号は広報委員会の編集グループが責任編集し、残りの二号は学生委員会が独自に責任編集するスタイルが採られ、それぞれは独自に特徴ある内容を目指しています。そこで、一年を通して一つのテーマに基づいて表紙を統一したイメージでつくることにし、素材として経済学部附属史料館所蔵の『琉球貿易図屏風』を選びました。

今年三月に滋賀大学広報誌は『しがい』として、広く地域社会へ情報を発信するメディアとしてリニューアルされました。年間五号ですが、そのうち三号は広報委員会の編集グループが責任編集し、残りの二号は学生委員会が独自に責任編集するスタイルが採られ、それぞれは独自に特徴ある内容を目指しています。そこで、一年を通して一つのテーマに基づいて表紙を統一したイメージでつくることにし、素材として経済学部附属史料館所蔵の『琉球貿易図屏風』を選びました。



今回の表紙

た滋賀大学のグローバル化が大学の目指す方向の一つです。そこで、滋賀大学のグローバル化を琉球を描いた屏風で強調することにしました。

全体の屏風（創刊号九ページ）を六分割し、創刊号と本年度の五号の表紙にそれぞれ利用させていただく予定です。第三号の部分は首里城と天然の良港泊村です。

各号の表紙裏（二ページ）にはその部分の解説を史料館の岩崎助教にお願いしています。屏風全体の解説では省略される小さな部分の解説はワン・ポイント知識としてもとても興味深いものです。

第三号の表紙の色が第一、二号のものとは違って海がとても青くなっていることに気づかれたでしょうか。

平成十二年三月に屏風の修復が完了し、第三号からは本来の色彩により近いものとなっています。

千本木 修一（広報委員会委員）

彦根キャンパスの出来事

アカミミ（旧姓 ミドリ）亀子の産卵

去る6月14日早朝、ライオン池を出た私は前日の雨でほどよく湿った史料館の丘に深さ20センチほどの穴を掘り7個の卵を産みました。

夏の暑い日差しに土が温められると子どもたちは孵化します。あと1年半ほどでしょうか。ただ、かえってからも地中の生活を続けてそのまま冬眠に入り、来年春にようやく地上に顔を出します。無事に生まれて滋賀大学のみなさまにお目もじが叶う日を心待ちにしております。



置き去りにされた卵



産卵の様子

アカミミガメ（ヌマガメ科）
学名：Trachemys scripta elegans
甲長12～20cm，最大28cm。
アメリカ合衆国のオハイオ・アイオワからニューメキシコが原産地。

編集発行：滋賀大学広報委員会
委員長 門脇 延行（副学長・経済学部）
川嶋 宗継（副学長・教育学部）
秋山 元秀（教育学部）
磯西 和夫（教育学部）
千本木修一（経済学部）
岩崎奈緒子（経済学部）
山崎 勝也（総務課）
宮本 俊明（学生生活課）
（印は本号のチーフ）

〒522 - 8522

彦根市馬場一丁目1 - 1

（TEL：0749 - 27 - 1172）

発行日：平成12年6月30日

E-mail：koho@biwako.shiga-u.ac.jp

ホームページ：http://www.shiga-u.ac.jp